



初心

校長 松崎 由里子

心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんげんなことは、目には見えないんだよ。

12月中旬、国語科で伝記を読む学習をした5年生から、「伝記や偉人などの言葉を集めて日めくりカレンダーを作るので、校長先生も参加してください。」と依頼がありました。5年2組は29名。日めくりカレンダーを作るにはあと2人分足りません。そこで、担任と、校長とが参加することになったのです。「ワールドカップは、小さいころからの夢だ!」「物事を始めるチャンスを、私は逃さない。」「世界最高の選手であるよりも、よい人間でありたい。」「くつが脱げても転んでも、あきらめずに頑張ったことが今の自分につながっているかもしれない。」…完成したカレンダーは、一人ひとりのその子らしさが表れています。冒頭の言葉は、私が悩みに悩んだ末選びました。サン＝テグジュペリ作(内藤濯訳)「星の王子さま」に出てくる言葉です。

大学生の時、高校の先輩が作曲を担当した、アマチュア劇団のミュージカル「星の王子さま」の公演に合唱メンバーとして参加することになりました。練習の傍ら、小学生の頃買ってもらって本棚にしまわれていた『星の王子さま』を手を取ったところ、大変な衝撃を受け、心を激しく揺さぶられながら読み進めていったことを覚えています。小学生の時には分からなかった、子どものみずみずしい感性のすばらしさ。冒頭の作者の「おとなは、だれも、はじめは子どもだった。(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)」という言葉を受け、「私は忘れずにいたい」と強く思ったものです。この『星の王子さま』の数々の言葉との出会いは、「子どもとかかわる仕事がしたい。」という私の夢を大きく膨らませることになりました。

令和5(2023)年を迎えました。子どもたちも、きっと、新しい気持ちで夢や目標を抱いているのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症に翻弄された3年間でしたが、少しずつ世の中が進んできている気がします。私が本校に着任して4年目ですが、

臨時休業のない1年間は、今年度が初めてとなりそうです。「子ども自身が自分の好きなことを見つけたり、自ら発見したりすることを大切に、豊かなつながりをつくることのできる学校生活をめざします。」と語った初心を忘れず、「鳥が丘」が大好きな子どもを育てていきたい、そのために、保護者、地域の方とこれまで以上にかかわりを深めていきたいと考えています。どうぞ今年もよろしく願いいたします。



飼育小屋にいる「もこた」です。飼育委員にお世話してもらっています。